金融犯罪被害に遭わないために

　盗まれたキャッシュカードやクレジットカードが第三者に使われ、気付いた時点ですでに多額の預金が引き出されている、高額商品を買われている、といった事件が多発しています。カード類が盗まれるケースとしてよくあるのは、ゴルフ場などの貴重品ボックスから盗まれる、運転免許証や保険証などと一緒にしておいた財布ごと車上荒らしに遭う、空き巣・スリに遭うなどです。カード犯罪に遭わないために、次のことに気を付けてください。

○ 暗証番号を他人に教えない（たとえ恋人同士であっても暗証番号を教えない）
○ 第三者に推測されやすい番号を使わない（生年月日や電話番号、車のナンバー、住所地番など。ただし複雑すぎるものは忘れやすくなるので注意を）
○ 共犯者のいる強盗は、一人が金融機関で預金を引き出すまで、被害者を解放しないことがあるので、多額預金の場合はキャッシュカードを作らず、預金通帳を利用する
○ 支払いのため、クレジットカードを預けたら、そのカードから絶対目を離さない
○ いかがわしい風俗店、わいせつ物販売店などでクレジットカードを利用しない
○ キャッシュカードの暗証番号を他のサービスの暗証番号として使うことは避ける
※ 銀行員、銀行協会職員、警察官などが店舗外や電話などで暗証番号を尋ねることはありません。不審な場合は、直ちに取引銀行へ照会してください。